

社会と教会
生活と信仰
平和・人権
分かち合い

No. 18

共に生きる

聖家族有志会報

編集/〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10 アドラック内 /瀬下幸弘

うづき
卯月
4
2012

障がい者と歩こう会

4月15日(日)11時スタート

畠白木橋駐車場を出発

畠貯水池を1周します。

畠キャンプセンターで昼食とbingo



bingoゲーム景品を集めています。

恒例の“歩こう会”が15日になります。1年1回ですが、障がい者（社会的ハンディを持つ方々）はこの日を楽しみにしています。一緒に歩きませんか。お弁当とお茶をご持参下さい。

ハンセン病 けいふうえん
療養所 恵楓園訪問 4月曜
30

朝8時マイクロバスで
援助修道会駐車場発→17時40帰

参加費/2,000円 小学生無料
お弁当代500円別途

お知らせ

- ◆4月1日(日) 平和の集い実行委員会 戸畠カトリック教会 ……14時
- ◆4月8日(日) 英語ミサと交流(黒崎) 交流会は一品持ち寄り ……15時
- ◆4月15日(日) 障がい者と歩こう会 ……11時～11時 畠貯水池駐車場発→畠キャンプセンター
- ◆4月16日(月) 社会福音部会(テレジア) ……19時
- ◆4月22日(日) 虹の会(分かち合い) ……ミサ後
- ◆4月25日(水) ACO聖書分かち合い(天神町) ……10時 午後～ACO例会(天神町)
- ◆4月28日(土) 九条守りたい(西南KCC) ……14時
- ◆4月30日(月) ハンセン病療養所訪問 ……7時50分

虚像からの脱却

福島第一原子力発電所の事故から一年が過ぎました。いま「放射能汚染」という言葉が聞こえない日はありません。事故直後から「ウラン」「ブルトニウム」「使用済み核燃料」「圧力容器」「炉心」「メルトダウン」「被曝」「ミリシーベルト」：等々の専門用語が次々と交わされました。それらの言葉をすべて理解することは難しいのですが、多くの人々のいのちに関わる問題です。

昨年出された「いまで原発の廃止を」の司教団メッセージを読むだけに終わらせず、わたしたちにできることは何かを真剣に考えることが大切だと思います。原発に対する教会の立場が明確にされたのですから、わたしたち一人ひとりがそれを学び、原発のない安心で安全な生活へとつなげていきましょう。

みなさまのご意見をお寄せ下さい。2面に続き (編集部)

福島第一原発事故を教訓に 原子力発電のは是非を 真剣に考えましょう



マザー・テレサの祈り
あなたの中の最良のものを

あなたの正直さと誠実さが、あなたを傷付けるでしょう。
気にすることなく、正直で誠実であり続けなさい。

東日本大震災被災者支援

3月10日,11日の募金額は

120,803円でした。

CTICからの礼状届く 3面関連記事

— 平和の使者としての役割を —

原子力発電は地球上の生命環境にとって最悪の選択

瓦礫(がれき)受入れ是非の議論が沸き起っています。「復興」と「絆」のもとに“お役にたてるなら受入れてもよいのでは”との思いもあるでしょう。しかし、放射能汚染されていないなくても問題は多々あります。また放射能汚染物は拡散させず閉じ込めるのが原則で、たとえ受入れても焼却後の処理方法まで検討しておかねばならないとの指摘もあります。いま大切なことは受入是非議論で翻弄されるのではなく、そもそも「原発や核は人類と共存できるのか」の原点に立ってこそ、よりよい選択ができそうです。司教団メッセージや専門家の意見を参考にしながら、自分自身で答えを出すときではないでしょうか。

日本カトリック

司教団は“いますぐ原発の廃止を”と呼びかけています

2011年11月8日のメッセージで

「わたしたちカトリック司教団は『いのちへのまなざし』で述べたメッセージで、いますぐに原発を廃止することまではできませんでした」として、

「福島第1原発事故という悲劇的な災害を前にして、そのことを反省し、日本にあるすべての原発を廃止することを呼びかけたい」と言っています。そしてエネルギー不足を心配する声もあるなかで、わたしたち人間には

「すべてのいのち、自然を守り、子孫により安全で安心できる環境をわたす責任があります。」

続いて利益優先の経済至上主義ではなく「尊いいのち、美しい自然を守るために原発の廃止をいますぐ決断しなければなりません。」と呼びかけています。

カトリック教会は、福島第1原発事故が起きる前から、原発の危険性を専門家から学び、パンフを作っていました。



左のパンフレットは2010年12月20日に、日本カトリック正義と平和協議会が出したものです。監修・資料提供は京都大学原子炉実験助教の小出裕章さんです。パンフ出版後、2ヶ月と3週間後に福島第一原発事故が起きました。危険性を知った人々は事故前からパンフを広めよう



写真は大槌町

としていました。その矢先に原発事故が起きました。小出裕章助教はこう述べています。

「欧米諸国はすでに35年近く前に原子力からの撤退を始めていたのです。そうなったのは、成り立たない経済性、拭い去れない巨大事故の恐れ、消すことのできない放射能の発生、そして核兵器と一体の技術であることなど、乗り越えることのできない根本的な理由があったからです。…中国インドなど多大な人口を抱えながらエネルギーが不足している国々は今後原子力も利用しようとするでしょう。…そこで原子力産業は中国やインドに原発を売りつけて生き延びようとしています。自分自身が維持できずに撤退した技術を、金儲けのために他国に売りつける行為は正義に反します。」

小出助教の心配した事故が起きました。それでもあきらめず原発を即時やるべきと訴え続けています。北九州市の講演で女性から「自分たちに何ができますか」と質問され「歌の上手な人は歌で、署名やデモも一つの手段です。これなら自分にもできると思うことを、皆さんのが実行するようになった時、原発は必ず止まると思います」と言っています。

私たちにできることをしませんか。

司教団メッセージとパンフをお読みになり、編集部までご意見をお寄せくださいませんか。

4月11日：イチイチ祈りの会をいたします。

場所は修道院聖堂、午後7時からです。どなたでもお出でください。

イチイチという名前は、11日に因んでつけました。

3月11日：東北大震災

9月11日：(ニューヨーク貿易ビル爆破事件の日)

(キリスト者・九条より)

5月3日：北九州9条まつり

場所／勝山公園芝生広場(小倉北区図書館裏)

時間／10時30分～12時30分

※雨天時はムープ5階大セミナー室

同日、13時～北九州憲法集会

ムープ2階ホール

4月25日(水)：

午前10時～福音の分かち合い

午後～ACO例会。

中井神父が参加予定です。

分かち合いはどなたでも参加出来ます。

来年、ACO全国大会を長崎で開きます。

(信徒協より)

4月1日：平和の集い実行委員会を開きます

カトリック戸畠教会、午後2時から

8月12日(日) 平和の集いに向けて
テーマ、メイン講師、役割などを
話し合います。



東日本大震災被災者支援関連ニュース

◆ 3月11日の特別献金 **120,803円**

外国人被災者支援センターCTICに送金致しました。
教会会計担当者が送金されました。

3月10(土)、11(日)の震災支援金はミサの中で特別献金の形で集められ、 外国人被災者のために送金されました。ありがとうございました。

外国人支援センターCTICセンターより早速お礼のお手紙と領収書、写真が送られてきましたので掲示板に貼りました。ご覧になった方も多いかと思われますが、その中から少し取り上げて、今後の計画等も電話で伺ったことも交えてお伝え致します。

先ず、度々の義援金をスタッフ一同から感謝されています。3月10日、震災後1年目に当たり、東京のチャペルセンターを借り、CTIC主催で福島の被災者の方々と共に追悼ミサ、集いの会をもたれました。福島から悪天候の中、福島、郡山、白河、那須川、いわきの方々が、バスで夜明け前の出発、日帰りと云う強行軍にもかかわらず、90名の方が参加されました。東京教区のフィリピン人コミュニティーの方々がミサの準備、聖歌の練習、食事の用意、受付をされ、フィリピン大使館の方々も多く出席され200人余りの集いとなりました。福島の方は困難な状況の中「前向きに！元気に！」を合い言葉に頑張っておられます。フィリピン人の明るさもあり、今は楽しもうと泣いたり笑

ったりしながらも東京と東北とのつながりを強め、福島の方から東京の方が勇気づけられるような集まりになったようです。また同封して下さった写真は、福島の方がそろいの「福島」と書いたTシャツを着て、歌って、踊って明るくされているものでした。

このように被災地のフィリピン人はコミュニティーが出来、互いに力づけられ、未だ物質的にも経済的にも精神的にも大きな傷を残していますが、希望を見出し、信仰をみつめ直し、共に生きようとしておられます。被災しなかつた県にもフィリピン人がおられます、つながりがなく、過されている方が多いようです。そこで10月に東北地方全域のフィリピン人の集まりを仙台教区で考えておられ、CTICがこれに協力されることになっています。

CTICでは今後も被災者により
そい、支援の方法を探していかれます。「こう
いった活動のために皆様からの義援金を使わせ
ていただきます。重ねて感謝申し上げます。」と
ありました。ありがとうございました。



六本木フランシスカンチャペルセンターにて

援助修道会 Sr. 高木百世

大槌でのボランティア

3月10~17日に岩手県大槌町へ二回目の被災地ボランティアに行ってきました。10日の夜に着いたので、様子ははっきりとは分かりませんでしたが、それでも信号と街灯でやっと見えるメインストリートの周囲にはほとんど建物がありませんでした。大槌の復興にはまだまだ時間がかかるであろう、というのが第一の印象でした。

ここで私が体験した活動は震災直後から大槌の姿を撮り続けた方の写真展のお手伝いと、すぐ近くの赤浜での漁師さんのお手伝いでした。

震災の被害を受けながらも写真展を手伝っておられた方が、「被災者の中には思い出すのが

辛くて震災の写真
を見ない人もいる。
けれど多くの人が、
現実から目をそらすことはできない
し、忘れてはいけないという想いで
見に来るんだよ」と言われました。



写真を見に来た方からも、思っていた以上に前向きで力強い言葉や、ボランティアに来る人への感謝と励ましの言葉をたくさん聞いて、もっとこの地の復興に関わりたいなあ、と思いました。

沿岸部の大槌では積雪量はそれほど多くなく、朝日に照らされて輝く雪の街、青い空と海がとてもきれいなところでした。しかし、雪が解け

て現れる「壊された」というよりも「なくなってしまった」その地は、どうしようもなくさみしい感じがしました。そこに懐かしそうに跡地をながめ、以前生活していたころを再現するように歩いている方がいました。その姿を見るのは何とも辛いものでした。

「ボランティアというのはどれだけ作業をしたかではなく、作業するなかで出会う人、すれ違う人とどれだけ声を掛け合い、どれだけ相手を大切にできるかというのが大事なんだよ。だから、何ができるかではなく自分のためにここに来てほしい。そして細く長くつながり続けてほしい。」という大槌ベース長の神父様の言葉にとても共感しました。そして何ももっていない私たちがボランティアとして現地に行かせていただくことの意味について気づかされました。

私にとっては二度目の東北でのボランティアで、前回の米川ベース同様、今回大槌に来て本当に良かったと思っています。ボランティアの体験を通しての出会いと関わりはどれも大切なものです。私の宝物です。そしてこれからもずっとつながり続けたいと思います。



分かち合いのとき

3月25日 16名参加

虹の会

—「自死と孤立」を考える—

四旬節小冊子『つなぐ』から「しっかりとつながっていますか?」をもとに分かち合いました。

自死と孤立死をテーマに分かち合いました。自死者とその家族に関わったことのある参加者の多さに、驚きました。すぐ身近に起こり得るという恐さや社会の歪みを痛感された方が多かった様です。また社会から孤立して死を迎える人、人の繋がりがあれば助かったかも知れない人、悲劇が数多く起こっていることについて分かち合いました。孤

立死を防ぐための活動をされている方もいて、現実を知る事が出来ました。「自立」が「孤立」にすり代わらないように、地域で独居生活者を見守りながら、緊急時には、すぐに手を差し延べられる社会を私達は作らなければいけない、そうしなければ悲劇は無くならないという意見が多く、一人ひとりが積極的に関わろうとしている姿が印象的で、素晴らしい分かち合いの時間を過ごせました。(中岡浩史)

次回、4月22日

どなたでもご参加
ください。

奄美のカトリック教会の歴史から学んだもの



鹿児島から南へ400km、沖縄からは350kmに位置する島が大島紹で有名な奄美大島。人口約7万数千の島にカトリック信者が4千人。戦前戦中に日本軍によるカトリックへの迫害について語るシンポジウムが古田町マリア教会で開かれた。迫害の歴史を再び語らねばならないほど、いま危険な時代が近づいているように感じる。資料や証言から少し紹介していきたい。

（参考資料及び宣教百周年資料誌等より）

■背景－奄美の宣教が、カナダ管区フランシスコ会に委ねられたのが1921年（大正10）。宣教師の多くがアメリカ系カナダ人であつたことが迫害の要因とも。何故なら、その年にワシントン会議で日本は軍縮をせまられた。これがアメリカとの争いの火種ともいわれ、その後（大正12）陸軍要塞司令部が奄美に置かれた。軍当局にとつてはアメリカ系の神父と信者がいることが、軍の秘密保持等で深い疑惑と反感になつたようである。

■教会の動きと弾圧－1923年、大島中学生二人が高千穂神社に参拝せず、退学処分となる。翌年、ミッショナルスクール大島高等女学校が開校したが1929年の伊勢神宮遷宮遙拝式典を行わず休校としたため問題となり、国防研究会や町議会で廃校決議などが出され、10年ほどで廃校へと追

い込まれた。（上智大学でも靖国神社参拝拒否問題等が起こっていた。）奄美の弾圧は、1934年（昭和9）になつて激しさを増した。角和陸軍少佐など軍幹部が先頭に立つて信者を「非国民」「スペイ」などと罵倒した。外国人宣教師全員が島から追い出された。信者には改宗を迫り、改宗しない者は容赦なく地域ぐるみの排撃が繰り返された。教会は焼かれ、マリア像は打ち砕かれ、信者の家は防空演習の標的にされた。新聞に「奄美大島の村民力トリック教会を襲撃、怪聞続々発覚：南海に暴露した第二の國際スパイ事件」などと掲載された。1935年、カトリック長崎教区は義勇機献納運動。翌年、バチカン布教聖省は「神社での儀礼は、単なる愛国心のしるし」とし、日本のカトリック教会は神社参拝を容認してしまった。

（押川はるかさんの証言より）



要塞政府があり、軍のカトリックに対する迫害が強くなつた

わけであります。昭和9年からの迫害で神父様もいなくなつて、カトリックをスパイだとか言っていろいろないじめ、困つたことが盛んだったのです。軍部がさかんにやりました。特にこの北大島のほうがカトリックが盛んだったので迫害がひどかつたわけです。軍部が神父追放と共に信者に対しての棄教、教えを捨てろという運動があつたわけであります。在郷軍人とか青年団がそれに加わりました。カトリック信者だけは繩を張つて、その中に入れて棄教を迫られたわけです。またカトリックのお墓の撤去とか、墓の十字架を夜中に引っこ抜いてその場で焼いていたんです。子どもながらにも朝、学校に行く時には煙がまだ残つていたのを覚えてています。

（次号へ続く）

読者投稿

当たりました！（弘）

3,000円分の宝くじで、3,300円が当たりました。300円の大もうけ。3億も当たると人が変るというので、ここどまり。その3,000円を恵楓園へ行くマイクロバス代にカンパしました。

好きな詩をおすそわけ（ぼーさん）

美しいこえ

新緑の天地に鳴く
鳥たちのこえのよさ
体が愛に燃えていると
あんなにも美しいこえになるのかと

わたしも心をはずませる



坂村真民（さかむらしんみん）

ツイッター

“長寿の心得” 南蔵院でいただいた手拭（玲）
還暦／60才でお迎えの来た時は、只今留守と云へ。
古希／70才でお迎えの来た時は、まだまだ早いと云へ。
喜寿／77才でお迎えの来た時は、せつな老楽これからよと云へ。
傘寿／80才でお迎えの来た時は、なんのまだまだ役に立つと云へ。
米寿／88才でお迎えの来た時は、もう少しお米を食べてからと云へ。
卒寿／90才でお迎えの来た時は、そう急がずともよいと云へ。
白寿／99才でお迎えの来た時は、頃を見てからこちらからボツボツ行くと云へ。

気はながく 心はまるく 腹たてず
口をつてしまえば 命ながらえる

質的な歩み

「従軍慰安婦」問題にかかわって(2)

山 県 順 子

91年に“日本軍慰安婦”だつたことを最初に名乗り出られた金学順(キムハクスン)さんに続き、その後10カ国(韓国、北朝鮮、中国、台湾、フィリピン、東チモール、インドネシア、マレーシア、オランダ、ニューギニア)から約1000人の女性が公に名乗り出られ、世界中に衝撃を与えました。各地で日本政府に謝罪と賠償を求める声が上がり、その後被害女性と支援する女性たちの間に“性被害の連鎖を断ち切る”ための暖かく強い連帯が生まれました。

例えば韓国の元“慰安婦”的人々は、問題解決を求めて92年よりソウルの日本大使館前で、毎週水曜日に炎天下でも吹雪の日も20年間デモを続けてこられましたが、昨年12月14日の1000回目には、応援の「同時デモ」が、9カ国(アメリカ、カナダ、スコットランド、ドイツ、イタリヤ、ベルギー、フィリピン、台湾、日本)29都市に及びました。

また勇気ある人々は日本政府を被告にして、6カ国(韓国、中国、フィリピン、オランダ、台湾、在日)から合計10件の「慰安婦裁判」を提訴されました。その一つ「閨金裁判」は93年より下関で行われ私も傍聴に通いました。98年にその有名な「下関判決」が出ました。「従軍慰安婦制度はナチスの蛮行に準ずる重大な人権侵害であり、徹底した民族差別、女性差別である。極端な人権侵害に対しては国は立法して救済する義務があるが、今日まで彼女たちを放置し続けたのは新たな人権侵害である」と宣告。国に法的な救済責任あり、との当判決は国際的にも高く評価されました。しかし10件の“慰安婦”裁判はすべて高裁、最高裁で敗訴しました。その中で下関判決が示す「立法解決」は今でも“慰安婦”運動の究極の目標になっています。

96年からは国連初め各国議会(米、オランダ、カナダ、EU、韓国、フィリピン、等)や国際人権機関(ILO、アムネスティインターナショナル、等)が、“慰安婦”問題について「早期解決」を計るよう、謝罪、賠償、教科書記述等の「勧告」を日本政府に送り続けています。

2000年には連帯の実りとして東京で「女性国際戦犯法廷」が開かれました。8カ国から元“慰安婦”64名、国内外傍聴者延べ約5000人(2会場で一週間)、という大規模なもので、私も三日間のみ傍聴できました。抜群の経歴の国際的法廷関係者、プロ級の仕事をするポランティア数百名は、全員自由意志で任務を引き受ける等、国家が果たすことを拒否した責任を民間があえて担つた、どの国も政権にも属さない大法廷でした。全席同時通訳器つきの英語による裁判でしたが、「閨金裁判」「下関判決」は日本語が使われていて嬉しかったです。元“慰安婦”方は圧倒的な存在感で「何千キロもの距離を正義のためにやつて来た」と強調されました。判決は「日本軍慰安婦制度は性奴隸制度であった」と、また誰もが公言しえなかつた「天皇ヒロヒトと責任者36名は有罪」を宣告しました。

これらの歩みは、何千年も性被害の悲しみを連鎖してきた女性たちが、20世紀の終わりに連帯して、正義を求める「質的な歩み」を開始した証しであると思います。(つづく)



編 集 後 記

上の写真は読者からいただきました。後方の筑豊電車とのバランスが実際にみごとですね。出会うとついシャッターを押したくなるそうです。

本の世界でも出会いはいろんなところにあり、教えられます。柴田トヨさんの詩「百歳」の中で「流行」は人々の忘れてしまった心を言い当てています。

世界の何处かで 今も 戦争が起こっている
日本の何处かで いじめも起きている
やさしさの インフルエンザが
流行しないかしら
思いやりの症状が まんえんすればいい